









MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING

MCN REPORT

Vol.17 2012.3

 あいさつ	1 ページ
 トピックス	2 ページ
 大学の動き	3～6 ページ
 学生支援事業	7 ページ
 研究室訪問	8 ページ
 学生生活	9～10 ページ
 行事予定／お知らせ	11 ページ
 クラブ・サークル活動紹介	12～14 ページ

トピックス

三重県と災害対策相互協力協定を締結 2 ページ

平成23年度 公開講座『災害と看護』 2 ページ

シリーズ

開学15周年に向けて 3 ページ

研究室訪問 8 ページ



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



大学マスコット
キャラクター
「みかんちゃん」

理事長〔学長〕 あいさつ

村本 淳子



2011年は未曾有の災害に見舞われた年になりました。東北地方を中心とした地震による被害は戦後起きた最大の出来事として私たちの心に深い傷跡を残しました。

また三重の地も台風により大きな被害に遭いました。これらの出来事は私たちに生きるということ、人間として原点に立ち返ることなどを教えてくれました。また私たちに使命感を与え、初心に返るきっかけとなりました。本学も学生と教職員が岩手県に災害ボランティアとして参加し、多くの学びを得ました。その他、本学の23年度の地域貢献事業である公開講座のテーマを「災害と

看護」とし、3回シリーズで行ったり、災害に対する学生ボランティア育成事業の立ち上げ、学生ボランティア活動の支援の強化など、大学あげて取り組んでまいりました。

災害は人々の身体的、心理的、社会的な健康と大きく関係します。平成23年7月に開設した認定看護師教育課程「感染管理」ではとくに本学の場合、地域や災害時にまで踏み込んだ感染教育を意識して行っています。

災害に関するネットワークを県や地域とこれまでよりもさらに積極的に結びながら、地域に根差した災害危機に強い大学として努力しています。

今後とも皆様方のご支援をよろしくお願いいたします。

後援会会長あいさつ

市川 稔



三重県立看護大学は創立15年のまだまだ若い大学ですが、看護の様々な分野での社会の要請や時代のニーズに十分に答えられるために、現在、本学に関係する人たちが一丸となっ

て、鋭意取り組みを進めてきております。

私ども、本学学生の保護者を中心として組織して

来ております後援会としましても、本学が目指す教育の理念・目標の達成への一助となるよう、また、本学学生が充実した大学生活を送ることが出来るよう、しっかりとその責務を果たしてまいりたいと考えております。

本年度も引き続き、本学に関係されます皆様方には宜しくご指導・ご鞭撻のほどお願いを申し上げます。

新カリキュラムがスタートします

平成24年度から新カリキュラムがスタートします。今回のカリキュラム改正は、学生の看護実践能力を強化するために教育内容の充実を図るもので、卒業要件単位は従来から8単位増の134単位となりました。新カリキュラムでは、基礎学力向上のために「日本語トレーニング」を必修科目にするとともに、保健師教育における公衆衛生看護学分野の内容充実や、助産師教育における助産実習単位数の増等を行っています。さらに、看護専門職としてのアイデンティティーの醸成に向けた「キャリアデザイン」、昨今の社会情勢を踏まえた「災害看護論」など新たな視点での科目を新設し、高度化・多様化する看護ニーズに的確に対応できる質の高い看護職の養成をめざします。



トピックス

三重県と災害対策相互協力協定を締結

三重県と本学とは、大規模自然災害への対策に関して相互に協力を図るため、平成24年1月31日に災害対策相互協力協定を締結しました。

三重県と災害対策相互協力協定を締結したことにより、三重県と本学との間に更に強固な協力関係を構築し、大規模な災害が発生した場合に本学において避難住民を受入れるとともに、傷病者の応急的な医療救護活動を支援させていただきます。

今後も、こうした活動を通して、県民のみなさまが命と暮らしの安全・安心を実感できるよう、県立大学としての使命を果たしてまいります。



平成23年度 公開講座『災害と看護』

未曾有の大災害となった東日本大震災が起こった今年は、東海・東南海・南海の三連動地震に備え、災害時の看護の役割を再考するために『災害と看護』と題し、3回シリーズでの公開講座を企画しました。

第1回の鈴木英敬三重県知事の講演＜三重県の防災対策について＞では、奇しくも台風12号で三重県が被災地となった直後の開催となり、鈴木知事より「まずは自分の命を守ること」「『過去がこうだったから大丈夫』という安心感は捨て、しっかり逃げて」という話を聴かせていただきました。講演の様子は、テレビ会議システムを通じて、台風12号の被災地となった紀南病院（御浜町）を含む、県内3施設に配信されました。

また、震災後の避難所における感染症の蔓延や、津波による津波肺など、東日本大震災では感染が大きな問題となりました。第2回公開講座では、実際に被災地で感染管理認定看護師として避難所の感染管理に取り組まれた西村哉子さん（済生会松阪総合病院看護主任）より、避難所の様子も交えた活動報告と、国内の感染症治療・感染対策の第一人者である矢野邦夫さん（浜松医療センター副院長・感染症科長）より、「地震・津波災害と感染症」の講演があり、災害時に起こりうる感染症の詳細を伺うことができました。

東日本大震災では、三重県内からも多くの看護職が被災地支援に駆けつけましたが、最終回となる第3回では、第1部は奥田美香さん（三重県立総合医療センター副看護師長・救急看護認定看護師）、中村みさとさん（三重県立志摩病院看護師長・集中ケア認定看護師）、山崎 修司さん（三重県立こころの医療センター看護師長）、宮本承典さん（南伊勢町保健師・本学第3期卒業生）の4名をシンポジストに迎え、「被災地支援で再認識した看護のあり方」と題したシンポジウムを行いました。シンポジストのみなさんが、それぞれの立場で被災地での活動の様子を話され、参加者とともに、災害時に看護が果たすべき役割について考えました。第2部では、清水将之さん（三重県立看護大学理事・三重県健康福祉部特別顧問）による講演「災害とはなにか？—防衛できることなのか？—」があり、3回シリーズの締めくくりとして改めて災害を考える機会となりました。



第1回鈴木三重県知事の講演の様子



第3回シンポジウムの様子



第3回清水氏講演の様子



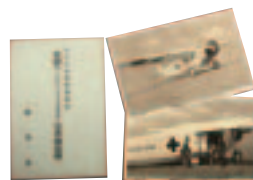
大学の動き

～本学は平成24年5月8日に開学15周年を迎えます～ 開学15周年記念事業について

開学15周年の記念日にあたる本年5月8日に向けて、平成22年4月から始動した「三重の看護史」編纂・発行およびミニ看護博物館開設準備のプロジェクトも大詰めを迎えています。

「三重の看護史」では、1985年以降の全国的な看護職をめぐる大きなうねりの中で、県内の看護職者の社会的地位や労働環境、また地域社会での役割の変化、さらに看護職者の養成課程の変遷などについて取り上げています。また、編纂の過程で県内の医療・看護の礎を築いてこられたともいえる諸先輩方からお話を伺った内容についても、「聞き書き」として掲載する予定です。歴史の専門家ではないプロジェクトの各メンバーにとって、自らの現在につながる過去を訪ねる試みがどのように結実するか、ご期待ください。

一方、ミニ看護博物館開設準備では、これまでに40人を超える皆様から資料のご提供をいただいています（2012年1月6日現在）。ご提供いただいた数多くの貴重な品物を通して、看護職者の足跡を次の世代にどのように伝えていけるか、資料の整理や展示に向けた解説づくりなどで試行錯誤を繰り返しています。ミニ看護博物館についても、披露となる5月8日に向け急ピッチで準備を進めています。



収集資料一部

国際交流活動「カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校(UCLA)からの教員招聘事業」



本学は、開学以来、国際的視野を持って活動できる能力の育成を教育目標に掲げ、国際交流を積極的に推進しております。代表的なものとしては、2001年に締結されたタイ国マヒドン大学との間の交流協定に基づくもので、毎年、マヒドン大学生及び本学学生を相互の大学で受け入れ、実習を実施しております。昨年は、新たに、米国カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校(UCLA)での本学学生の実習を実施し、それに引き続き、本年度は、平成23年9月10日から9月13日の4日間、UCLAから5名の教官を招聘し、学内の学部学生、院生及び教職員向けのシンポジウムを開催し、UCLAの教員との相互交流を図りました。今後、マヒドン大学と共にUCLAとも学生、教職員レベルでの交流を深めてまいりますので皆様には相変わらずの御支援賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



教 育 懇 談 会



9月10日に第3回目の教育懇談会を開催いたしました。今年度ご参加いただきました保護者の方は昨年度の60組を遙かに上回る93組で、県内の継続参加の方はもちろん遠くは東北地方からの参加もあり、年々お子様の学生生活や卒業後の進路に対する関心が高くなっていることが伺われました。ご参加いただきました方には、主にお子様のチューター教員と面談していただき「日頃の状況や成績について聞くことができ、安心した。」との声が多く聞かれました。しかし、待ち時間が長くなりましたので今後は対策等を検討していきたいと考えております。





●●● オープンキャンパス ●●●



7月30日に開催されました「みかんだいオープンキャンパス」には昨年度に引き続き600名近い方々がご参加いただきました。津駅から大学までの往復バスが間に合わず開催時刻が少し遅れるというハプニングもありましたが、参加者の方々のご協力により大盛況の内に終えることができました。参加者の方々は、在学生70名以上の応援により、大学紹介、入試説明、模擬授業、体験ブースなどを効率よく消化していただくことができました。また、在学生の誠実で丁寧な対応に対し、参加者の方々から高い評価をいただきました。

「みかんだい通信」 はじめました

オープンキャンパスより、本学進学希望者向けメールマガジン「みかんだい通信」を始めました。

登録者は県内の高校2、3年生を中心に約300名。毎月1日と15日の2回、入試や大学イベントなどの最新情報を配信しています。

登録は三重県立看護大学
モバイルHPから



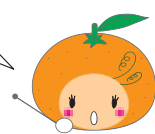
特別入試結果について

平成24年度の入試は、毎年11月に実施している特別入試を改革して、初めての入試となりました。昨年度まで、同一日に実施していた地域推薦入試（11月6日実施）と一般推薦入試・帰国子女入試・社会人入試（11月23日実施）をそれぞれ別日程で実施しました。地域推薦入試では2.3倍（前年3.0倍）、一般推薦入試では1.9倍（前年2.0倍）となり、例年とほぼ変わらない多くの皆さんが受験してくださいました。本学を目指してくださっている高校生の皆さんが、より多くの機会を利用して受験できるよう、これからも入試の在り方を検討していきます。



平成25年度入試より 三重県立看護大学での インターネット出願 を始めます

国公立大学 初!*



※対象とする試験

- ・特別入試 地域推薦／一般推薦、帰国子女、社会人
- ・一般入試 前期日程／後期日程

※夏のオープンキャンパスや進学説明会での
デモンストレーションを予定しています。
（詳細が決まり次第HPでお知らせします）

*一般入試において（2012年1月現在）

ランキング

「専門分野を深く学べるイメージがある大学」
東海エリア女子 第 13位（前年9位）

「社会で役立つ力が身につくイメージがある大学」
東海エリア女子 第 8位（前年28位）

出典：リクルートカレッジマネジメント170「進学ブランド力調査2011」

「大学の地域貢献度ランキング」
総合ランキング（全国） 第104位（前年16位）
（公立大） 第 18位（前年7位）

地域別ランキング（東海） 第 14位（前年1位）

「大学設置形態別ランキング」
（看護・福祉・保健系） 第 3位（前年1位）

出典：日経グローカル No.184 2011.11.21／No.185 2011.12.5



大学の動き

認定看護師教育課程「感染管理」

ついに、認定看護師教育課程「感染管理」の1期生が2月に無事に修了できました！

そして、5月に開催される日本看護協会の認定審査に合格すれば、本学地域交流センターから初の認定看護師が誕生します！合格率100%を目指して、修了後もサポートしていく予定です。

次は、第2期生を募集しています。当教育課程としては、ぜひ本学を愛してやまない卒業生に来ていただきたいと強く願っています。卒業生の皆さん、もう一度母校で学んでみませんか。入試対策に関する個別相談も行っていますよ。少しでも興味がありましたら、こちらの事務局までご連絡ください。

平成24年度入試

試験日：平成24年5月19日（土）

開講期間：平成24年7月～平成25年2月（8カ月間）

連絡先：三重県立看護大学地域交流センター認定看護師教育課程「感染管理」事務局

TEL：059-233-5626 e-mail：kansen@mcn.ac.jp

募集要項：平成24年2月15日より配布

【当教育課程の強みをご紹介します】

- ①1カ月に1週間程度の自己学習期間があるので、ゆとりを持って働きながら学ぶことが可能です。
- ②研修生全員分の有線LANが教室にあるので、タイムリーに情報が検索できます。
- ③実習は、2施設を担当します（他教育課程は1施設）。
- ④看護研究を支援するサポート体制があります（地域貢献事業、感染管理看護研究会がサポート）



つながろう!!未来に続く男性看護職者

現在、全国の男性看護師数は年々増加していますが、都心の一部の大病院を除けば、地方にある中小病院に勤務する男性看護師は数名から多くても十数名であり、ここ三重県も例外ではありません。このような現状ではなかなか各自の施設を超えたつながりができないと考え、本学の地域貢献事業の一つである～つながろう!!未来に続く男性看護職者～の一環として、三重県内の男性看護師が広くつながりをもてる機会や場をつくりたいと考え、現在「三重男性看護師会」の発足準備を県内の男性看護師の協力を得ながら進めております。今春には男性看護師をテーマとしたシンポジウムなどの開催も計画しておりますので興味ある方は、ぜひご協力ください。



* 新人助産師の臨床実践能力育成のための研修体制構築

* 周産期における母子・家族支援のための臨床助産師の看護実践能力育成



修復技術の学習場面

周産期医療の高度化、医療安全に対する意識の高まりなど、人々のニーズの大きな変化を背景に、助産師の特性に応じた役割と実践能力が問われています。

平成22年12月末現在、三重県では都道府県別人口10万対就業助産師数が16.0人（全国平均23.2人）、全国順位47位という現状にあり、助産師の養成確保、定着促進、資質向上が急務となっています。

本学では、地域交流センターみえ看護力向上支援事業の一環として、平成21年度より三重県の「院内助産所・助産師外来開設のための助産師等研修事業」を受託し、分娩時胎児管理法、分娩時会陰裂傷の診断と修復技術、助産に活かす整体知識などのプログラムにより、周産期医療において中心的役割を担う助産師の看護実践能力育成を支援してきました。今年度、新たに「三重県新人助産師合同研



整体知識の学習場面



新人助産師合同研修での課題発表場面

修事業」を受託し、新人助産師が就労後1年間で到達すべき助産技術修得を支援しています。基本的な助産技術を実践的・段階的に学びながら、新人助産師のネットワークづくりにもつながることを期待しています。

助産師の学習ニーズに応え、キャリアディベロップメントに資するため、大学独自の卒後教育プログラムの提供を目指しています。



<三重県内病院等施設看護管理者の方々との意見交換会>

本学では、例年、看護・介護の第一線で御活躍されております看護管理者の方々をお招きし、本学の看護教育等の取り組みの説明と意見交換を行っております。

平成23年度は10月25日に県内30施設の看護管理者の方にご参加いただき開催しました。当日は、村本学長が「将来性のある看護職者にどう育てるか」と題した講演を行い、その後、認定看護師教育課程「感染管理」等の地域交流センター事業や、就業力育成支援事業などの説明を行いました。参加者の皆様からは看護職場でのフィードバックの重要性や看護職者としてのキャリア教育の必要性など様々なご意見をいただき、本学の取り組みを顧みる有意義な意見交換会となりました。



学生支援事業

休退学・早期離職防止のキャリア形成モデル

「看護師になるために」

学生の皆さんに質問です……「看護師資格を取得する」ことは「看護師になる」と同じ意味だと思いますか。もちろん国家試験に合格しなければ看護師として働くことはできません。しかし、高い看護実践能力を期待される臨床現場の中で、資格が得られたからといって誰もが立派な看護師になるとは限りません。そこには「看護師になる」という強い意志が必要になります。

文部科学省では、平成22年度から各大学・短期大学において、入学から卒業までの間を通した全学的かつ体系的な学習により、学生の社会的・職業的自立が図られるよう、大学の教育改革の取組を支援する「大学生の就業力育成支援事業」を実施しています。本学はこの事業に賛同し、平成24年度の新カリキュラムからは新たな科目を設置しています。

平成23年度は在学生のための研修会を行いました。この研修会では、社会で働くとはどのようなことか、看護師とはどんな職業なのか、また専門看護師や認定看護師についてなど、看護師としてさらにキャリアアップするための進路について理解を深めます。研修は1年生が8月、2年生は11月に終了し、3年生は3月に予定しています。研修会には先輩看護師の方々にも来ていただき、いろいろな思いを語っていただきます。平成24年度も研修は行います。「看護師になること」を目指す学生の皆さんには大いに参考になるとと思いますので、ぜひ出席してください。



「看護を学びたいあなたのために」

高校生向けに「看護職キャリアデザイン講座」を行いました。講座は、ステップ1と2に分かれ、ステップ1では、本学教員が県内18の高等学校に出向いて合計291人の高校生に、「看護を学びたいあなたのために」をテーマに、看護を学ぶにあたっての基礎知識や、看護職者の業務内容などの現状をお話ししました。ステップ1参加者の中から41名がステップ2に参加し、本学のオープンキャンパスで看護体験をした後に、8月11、12日の2日間「未来予想図」として自分のキャリアデザインを描きました。参加者の皆さんが、目を輝かせて話に聞き入り、一生懸命「未来予想図」に取り組む姿は、まさに未来そのものでした。

保健室便り

東日本大震災の数週間後にスタートした平成23年度を振り返ってみます。

健康診断、恒例のB型肝炎やインフルエンザの予防接種など、例年通りに保健室関連の業務は進んでいます。また、夏休みに岩手県へ学生20名がボランティアに参加することになったため、その支援も行いました。

自然災害が多いこの頃ですが、いつ何が起こるかわからない状況の中で、学内で見直したこともあります。AEDは2台あるのですが、設置場所はあまり知られていない現状だったため、学内に来られる全ての人にわかりやすく、使いやすい場所に移動しました。管理棟1階の玄関ホールと講義棟の1階に設置し、案内図なども学内各所に掲示しました。それに伴い、事務職員や図書館、生協の職員等を対象に、AEDの取り扱い方と心臓マッサージなど救急時の対応についての講習会も行いました。これで、もし学内で緊急事態が起きても、看護教員や看護学生だけでなく、職員も救急時に自信を持って対応できるのではないかと思います。

また、癒しの空間になれるように、今年も保健室での小さな活動は続けています。学内のみなさんが心も身体も健康でいられるように、これからも活動していこうと思っています。

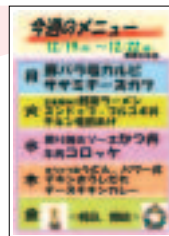


生協からのお知らせ

後期から購買書籍店は、もっと利用しやすくするためレイアウトを変更しました。同時に中間閉店（13：45～14：15）を廃止し、通常10：30～16：30の営業に変更しました。また、利用いただいている学生の皆さんの意見を参考に以下の改善をしました。

- ◆「ソフトクリームの販売」「アンケートによる女性雑誌の品揃え変更」
 - ◆「¥1000未満の書籍・雑誌が5%割引だったものを一律10%割引に変更」
 - ◆書籍フェアの実施「癒しの書籍フェア」「読書のいずみフェア」「プレゼントブックフェア」
- また、食堂では提供予定のメニューを貼りだしてほしいとの意見がありましたので毎週提供メニューをお知らせするようにしています。

今後も大学生生活がより良くなるよう皆さんの意見を反映したいと思います。



● 看護管理は「看護の成果」を導くための促進活動 ●



看護管理学 教授
若林 たけ子

名古屋の大学病院、市民病院で臨床看護師としての経験後、大学病院で看護管理職の歴任を経て、現職。

(三重大学大学院医学系研究科看護学専攻修了(看護管理学)、修士)

管理という言葉には「管轄」や「とりしきる」などの意味合いが含まれます。看護管理も同様で、従来までは「統制」や「ルール」を重視することが管理者の能力査定の対象になっていました。しかし、社会や医療が大きく変化する過程で、看護管理は「看護の成果」を導くための促進活動として位置づけられるようになりました。

看護の成果とは、患者さん及びご家族、組織や地域住民の方々、看護師自身がよい方向に変化することです。看護職が看護サービスの対象により良い看護を提供することによって、その成果を導き出すことができるでしょう。無形性、生産と消費の同時性、異質性、消滅性の特徴を備える看護サービスについて、指標で成果を表示することは至難の業ですが、臨床への還元を目的に研究を続けています。

看護管理学の歴史はまだ浅く新しい学問です。看護管理学としての究極の視点は、対象者に対するサービスの質を問い続けていくことです。その質をいかに高めていくことができるかが、追究の的になってくるでしょう。決して管理することがゴールではなく、管理によって「看護の成果を導き出す」ことがゴールなのです。このことを念頭に、肩書や権力に惑わされることのない、本来の看護管理の有り様と根本を揺るがすことなく、今後に向けて取り組んでいければと考えております。

● ● ● 全ては「看護学」のために ● ● ●

「看護に『革命』おこします！」と卒業アルバムにしたためてからもうすぐ7年が経とうとしています。現在に至るまで、臨床・教育・研究を経験し、今となってはとんでもないことを宣言したものと反省しております。これも、様々な経験から看護学にとって自分にできることは本当に些細なことだと理解できたからでしょうか。臨床で働いているとき、現状のシステムの変更をしたいと奮闘しましたが、なかなか賛同されず苦勞しました。この経験から、本学で学んできた「EBN」(根拠に基づいた看護)の重要性を実感し、研究の道に進むことを決意しました。研究者として走り始めたばかりですが、現在の研究テーマは看護技術や用具の検証を中心に行っています。自身の専門である看護学と、他の学問(人間工学、運動生理学など)を融合させ、新たな知見を追い求めています。また、教育者として、かわいい後輩たちに愛情をこめて、時には厳しく、看護のやりがいや面白さを伝えるよう努力しています。先にも述べましたが、私のできることは本当に限られています。しかし、卒業時の「野望」を忘れず、自分ができることをコツコツと積み重ねていき、いつか『革命』をおこせるよう、日々精進してまいります。



成人看護学 助教
長谷川 智之

三重県立看護大学卒業、名古屋大学医学部附属病院手術室・救急外来看護師を経て三重県立看護大学大学院修了後、現職に至る。現在、東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士後期課程在学中。修士(看護学)

「いわてGINGA-NETプロジェクト」参加報告

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方には甚大な被害がもたらされました。繰り返し流れる津波の報道や緊急地震速報を見て、本学の学生からも事務局や教員に対し被災地への支援を望む声が寄せられました。しかし、本学のような単科大学ではマンパワーも少なく、大学独自で東日本大震災のボランティア体制を組むことは困難な状況にあるため、本学の支援としては義援金の募集と、被災県の看護系大学への被災状況と必要とする支援についての情報収集に止まっていました。そのような状況の中、公立大学協会看護・保健医療部会



において「いわてGINGA-NETプロジェクト」の紹介と参加者の募集がありました。「いわてGINGA-NETプロジェクト」は、未曾有の被害に対し、力になりたいという全国の学生、また、学生のボランティア活動を応援しようとする大学、この両者の思いを受けて被災地の要支援ニーズと学生のボランティアニーズを効果的に結びつけるために、岩手県立大学学生ボランティアセンター、NPO法人さくらネット、NPO法人ユースビジョンが立ち上げた東日本大震災復興ボランティア事業です。



プロジェクトの期間は、7月27日から9月27日までの9週間（参加は1週間単位）とされており、本学は検討の結果、8月24日（水）から8月30日（火）の第5期に大学法人として参加することとしました。7月25日に各学年にプロジェクトの説明会と参加者募集を行いました。その結果、参加を希望した20名の学生と引率の教員1名、事務職員1名の計22名が

参加しました。本学から参加学生への支援としては現地宿泊地までのバスをチャーターすることとしました。8月24日午後7時に本学を出発し、宿泊地の岩手県気仙郡住田町に翌朝の10時に到着しました。参加した学生は初日に被災現地の視察を行い、翌日からは、活動地域とされていた岩手県大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市等の仮設住宅で他大学の学生に混じって、サロン活動（お茶っこサロン）、子ども向けの学習支援、遊び支援を行いました。

7時に起床。朝食後に当日の活動の打ち合わせを行い、8時30分頃から活動地域へ1時間ほどかけて移動し、10時頃から活動開始。途中昼食をはさんで15時頃活動終了。16時頃から入浴施設へ1時間ほどかけて移動し入浴。入浴後宿泊地に19時頃到着し夕食。19時30分から「振り返りの会」と翌日の打ち合わせ。時間があれば参加メンバーとの交流をもつこともありましたが23時には消灯。以上のようなスケジュールを5日間送りました。宿泊場所は住田町の五葉地区公民館に併設された体育館であったため、参加した学生約160名が男女別に区切られたスペースに寝袋でザコ寝の状態でした。朝は菓子パンまたは総菜パン、昼と夕は揚げ物が主体の弁当で、避難所生活と同じような日々を過ごしました。

この1週間の被災者支援を通じて、本学の学生は被災者の心理を理解することや支援のあり方の難しさなどを学びました。また、医療・看護系大学ではない一般の大学生の考え方や積極性を体験することができました。





三重県知事と本学学生との意見交換



9月30日に本学にて、「みえの現場・すごいやんかトーク大学編」として鈴木英敬三重県知事と本学学生が、「災害時に看護大生としてできること」というテーマで意見交換を行いました。

当日は、東日本大震災の被災者支援ボランティア活動に参加した学生や、献血サークルに所属する学生、FM三重Campus CUBEで学生パーソナリティをしている学生など12名の学生が参加し、被災地でのボランティア活動から感じたことや県内での献血活動の現状などについて意見が交わされました。鈴木知事からは、「災害時には、まず自分や大切な人の命が守れるよう心がけ、その上で看護大生としてできることを引き続き実践して欲しい。」とのメッセージをいただきました。



平成23年度卒業研究発表会



12月27日に卒業研究発表会が開催されました。大講義室での玉田学生部長による開会の挨拶の後、学生が4会場に分かれて1年間取り組んだ研究について発表を行いました。いずれの発表も4年間の締めくりにふさわしい力作ばかりで、4年生と共に来年履修する3年生も参加する中で、各会場では熱い討論がなされ、大学4年間の学びの結実が感じられる発表会となりました。

平成23年度修士論文発表会

1月18日に大学院生5名が入学当初から進めてきた看護研究の成果を発表しました。「手術を受ける患者の看護、長期入院中の患者や病を抱える年長幼児・中学生らの支援に関すること」など、これまでの看護実践を踏まえた課題が研究テーマとなりました。一人20分間の発表でしたが、その後の質疑応答では時間をオーバーするほど多くの質問・意見が出されました。この発表会をふまえ、19日より修士論文審査が行われました。



学生キャンパススナッフ ～学内の日常を紹介します～

国試にむけて
がんばってます



お昼ご飯の時間があわせてです



24の世界は大変です

実習
がんばってます！



お母さん毎日
お弁当ありがとうございます

実習だいへんです



学生のみなさんから
今の心境を一言コメント
してもらったよ♪



10

MCN REPORT

行事予定

平成24年度前期行事予定

4月	2日 地域交流センター出前授業、公開講座講師派遣申し込み受付開始 4日 入学式 9日 前期授業開始
5月	8日 開学記念日／開学15周年記念式典 等 10日 ようこそ先輩・就職説明会 19日 認定看護師教育課程「感染管理」入学試験 夢緑祭
7月	2日 認定看護師教育課程「感染管理」開講 27日 前期授業終了 28日 オープンキャンパス ゆびた祭り
8月	2日 「みえアカデミックセミナー2012」公開セミナー（三重県生涯学習センター主催） 夏季休業
9月	1日 H25年大学院入学試験 6日 H25年大学院入学試験合格発表 8日 教育懇談会



* 地域交流センター関連の事業は、地域交流センター提案事業のみを掲載しています。
* この行事予定は2月10日現在のものです。今後追加される行事があります。
* 行事の詳細については、大学HPでお確かめください。

みかんの木 その後（平成21年4月 法人化記念植樹）

2011年2月



昨年的大雪にも負けず「みかんの木」は
すくすくと育っていきました。

5月



8月



11月



お知らせ

大学からのお知らせ

- ・講義棟1階の講義室（中講義室1・2）で飲食が可能となりました。
- ・学生ホールのイスが新しくなりました。

附属図書館からのお知らせ

館内のコンピュータシステムを充実させ、学習・研究を支援するさらに使いやすい環境を構築しました。

- ・館内の検索端末用パソコンを5台増設し、合計11台としました。図書館2階にも設置しました。
- ・図書管理システムをバージョンアップし、リンク設定を追加しました。
これにより、医学中央雑誌WebやCiNii（サイニィ：論文情報ナビゲータ）などのオンラインデータベースの検索結果から、館内の蔵書・雑誌を検索できるようにしました。
- ・PubMed（パブメド：医学・生物学分野の論文検索サービス）の検索結果から附属図書館で購読しているオンラインジャーナルの外国雑誌を閲覧できるようにリンクを設定しました。



クラブ・サークル活動紹介

献血推進サークル「さくらんぼ」

- ① **活動日**：月に1回程度
- ② **活動場所**：鈴鹿のイオンモールや松阪のマームなど
- ③ **メンバー数**：9人
- ④ **代表**：長谷川 有紗 **顧問**：林 辰弥
- ⑤ 私たちは血液が不足していることや必要性を伝え、献血をしていただけるように呼び込みや広報をしています。月に一度の“月例献血”や、夏やクリスマスなど血液が不足しがちな時期に学生主体の全国規模の統一キャンペーンを実施し、とくに若年層への協力を呼びかけています。三重大大学の“献血推進サークルヴァンパイア”さんと合同で行っており、中部地区や全国での会議に参加することもあり、幅広い人と知り合うことができます。



グリーンピース

- ① **活動日**：毎月金曜日の放課後
- ② **活動場所**：生活援助室
- ③ **メンバー数**：12人
- ④ **代表**：加藤 清香 **顧問**：片岡 えりか
- ⑤ 私たち「グリーンピース」は、料理を通じて友達を増やし、生活において必要な知識を身に付け、料理を楽しむことを目的とした料理サークルです。それぞれのメンバー達の好むものや季節の料理を考え、楽しく活動しています。



Campus CUBE チームみかん大

- ① **活動日**：月2回
- ② **活動場所**：FM三重
- ③ **メンバー数**：4人（男子3人、女子1人）
- ④ **代表**：藤田 美保 **顧問**：齋藤 真
- ⑤ 好きなことをしゃべって、いろいろ宣伝して、時々ゲストさんをお招きして…。



7/20大西先生ゲスト出演



8/31玉田先生ゲスト出演

みなさん、こんにちは。「Campus CUBEチームみかん大」は、参加している他大学の学生パーソナリティと一緒に和気藹々と番組を作っているサークルです。看護大でFMラジオに出演できるって他ではできない貴重な体験だと日々思っております。「ちょっとやそっとのことじゃ動じない」、「人前で話すことに緊張しない」など、自身の成長にもつながっていきっています。いつでも部員募集中ですので、しゃべるのが好きな人、ラジオが好きな人、一緒にラジオやりませんか？

クラブ・サークル活動紹介

- ① 活動日
- ② 活動場所
- ③ メンバー数
- ④ 代表者、顧問の氏名
- ⑤ 紹介



ゆめたまご

- ① 金曜日の昼休み（連絡があるときのみ）
- ② 講義室3
- ③ 24人
- ④ 代表：中沢 桃子 顧問：奥山 みき子
- ⑤ ボランティアサークルゆめたまごは地域の様々なボランティアに参加しています。例えば、3週間に一度母子家庭の子供達とお話をしたり、学習指導をしています。また他の大きなボランティア団体にも所属しており、代表の方から連絡があり次第地域のボランティアや障害者の方の介助などの活動もしています。人のために何かしたい！と思っているあなた！ぜひ私達と人に喜ばれる活動をしてみませんか？



バレーボール部

- ① 火曜18:00~20:00/木曜18:00~20:00/土曜9:00~12:00
- ② 体育館
- ③ 3人
- ④ 代表：大下 沙紀 顧問：草川 好子
- ⑤ 私たちバレー部は週3回、3人で活動しています。人数が少ないので今は基礎的なことを中心に練習しています。指導してくれている人もいますので、毎回充実した練習を楽しく行っています。楽しみながらもしっかり練習し、県の大会にも出場しています。みんなとても仲良く和気藹々としていますが人数が少ないので、一緒にバレーしたいと思っている人を募集しています。初心者からでも楽しめる練習内容なので、ぜひ一度遊びに来てください。

funfunテニスサークル

- ① 毎週水曜日と土曜日
- ② テニスコート
- ③ 30人ほど
- ④ 代表：細江 ちづる 顧問：大西 範和
- ⑤ 毎週水曜日と土曜日に本学のテニスコートでテニスをしています。テニスの大会に参加するのはもちろん、春・秋には遠足、夏には合宿、冬にはスノーボードへいくなど、さまざまな活動をしております。

Green Teaサークル

- ① 週2回。今は月木ですが話し合いで決めます。
- ② レクチャースペース（畳のある部屋です）
- ③ 16人
- ④ 代表：山下 真歩 顧問：二村 良子
- ⑤ Green Teaサークルでは毎週二回お茶の稽古をしています。週一回はお茶の先生を学外から招き、お茶の入れ方や立ち振る舞いなどの作法を習っています。初心者でも大丈夫、丁寧に教えてもらえます。メンバーはみんな仲が良く楽しく活動しています。また毎回お菓子が出ます。放課後の小腹がすいた時間に、おいしいお茶とお菓子はいかがですか？



国際交流サークル

- ① 主に、タイの研修生の来訪時や、各地で開催される交流活動・ブラジル人学校での身体測定の実施等へ参加しています。
- ② 学生ホールや、メンバーの自宅など、英語でコミュニケーションを図れる場所、外国人学校など、いろんな場所で活動しています。
- ③ 31人
- ④ 代表：田辺 英俊 顧問：橋本 秀実
- ⑤ 外国語を使ったコミュニケーションを積極的に図りながら、各自のコミュニケーション能力の向上を図っています。タイの研修生来訪時には、その能力を生かして、学校案内や京都の歴史についての案内をしたり、ブラジル人学校では、身体測定の実施などを行ったりしています。外国語能力にプラスして、医療を目指す学生である自分達ならではの活動を行っています。



ひだまりサークル

- ① 毎週木曜日 18:00~
- ② 学生ホール
- ③ 54人（1年生：23人、2年生：11人、3年生：10人、4年生：10人）
- ④ 代表者：林 美希 顧問：竹本 三重子
- ⑤ ひだまりは主に生協のお手伝いをするサークルです。学内で月に1度、理事会という会で学食や購買、学校生活をよりよくしていくために意見を出し合ったり、年に1度、東海地区の生協で集まり、他大学の活動を聞いたり、交流したりします。また、夏には夢が丘団地において「ゆびた祭り」という大イベントを主催したり、1年生~4年生までみんな仲良く遠足や旅行に行ったりと、楽しいイベントがたくさんあります。



タッピングタッチ&アロマサークル

- ① 月に1度
- ② 演習室
- ③ 12人
- ④ 代表：山本 みずき 顧問：伊藤 薫
- ⑤ こんにちは^^タッピングタッチ&アロマサークルです♪月に1回、疲れたかな~という時にみんなで集まって、演習室にて行っています。よりリラックスした状態でできるように、演習室の床にマットを敷いて、輪になってゆったりとした空間で過ごせるようにしています。BGMにヒーリングミュージックを流しながら、薫先生のアドバイスの元、タッピングタッチやアロママッサージを行っています♪メンバーでいろいろ話したり、笑ったり、うとうとしたりしながらとても和やかで自由なサークルです(=´∀´=)人(´∀´=)



バドミントンサークル「ミントん」

- ① 火曜日の放課後
- ② 体育館
- ③ 20人程度
- ④ 代表：高橋 志芳 顧問：オブライエン・マイルズ
- ⑤ 毎週火曜日に、体育館でバドミントンをしています。初心者
のひとでも、経験者の
ひとでも、みんなで楽
しくわいわいとバドミ
ントンをしています。



200up

- ① 月1回
- ② ボーリング場
- ③ 47人
- ④ 代表：山中 裕樹
顧問：杉野 健士郎
- ⑤ 私たち、200UPサークルは、ボーリングを通して学生間
の交流を深めることと先生方にも参加してもらい、学生
と教員の交流を深めることを目的に活動しています。先
輩、同期、後輩、教員と楽しくボーリングしています。



水泳部

- ① 火曜日・金曜日
- ② 三重大学のプールで合同練習
- ③ 8人
- ④ 代表：榊原 大介 顧問：小池 敦
- ⑤ 三重県立看護大学水泳部は、今年で創部5年目を迎えました
が今年も全国国公立大学の全国大会の標準記録を突破するな
どの実績を収めることができました。また、他大学との交流
戦、小学校での水泳指導教室に参加するなど幅広く活動して
います。今年も水泳部一同、部活を通してより充実した学生
生活を送ることができました。
来年度も公式試合で実績を残すこと・地域貢献に務めること
など、更なる飛躍を目指し、精一杯頑張っていきます。



niconico Communication

- ① 不定期（月2回程度）
- ② 不定
- ③ 25人
- ④ 代表：榊原 泰典 顧問：竹山 育恵
- ⑤ 私たちニコニコサークルの今年度の活動としては、新入生歓迎のためのか
ら揚げパーティー、蛍の鑑賞、スポーツ大会、夏の合宿、なし狩りなどさ
まざまなことを行いました。それぞれ季節の風物詩などを取り入れ「今し
かできない」という活動を基本にしています。
またそれぞれの活動の記録を動画編集し、みん
なで楽しみを共有できるような取組も行ってい
ます。ぜひニコニコサークルで笑いあえる時間
を共有しましょう。



せらびいくらぶ

- ① 不定期
- ② 不定
- ③ 5人
- ④ 代表：大野 嵩 佑基 顧問：山路 由実子
- ⑤ こんにちは、せらびいくらぶです。
せらびいくらぶでは忙しい毎日の中でも癒しを感じられるこ
とを目標に活動しています。
例えば学内に絵画や名言、クリスマス等季節の飾り付けなど
をしたり、最近では山歩きをして、日々の喧騒から離れてみ
るといった活動もしています。
癒されたいと思っている人やリラクゼーションに関心のある
人は是非一度声を掛けて下さい。

Nステ

- ① 週1回
- ② 体育館3階クラブB
- ③ 50人
- ④ 代表：山中 裕樹 顧問：前田 貴彦
- ⑤ 私たち、Nステサークルは、音楽を通して同期、先輩、後輩
などの学生間の交流を深めることを目的に活動しています。
また、みんなでライブしたり、プロのバンドのライブを見に
行ったりして楽しんでいます。

ハッピースポーツサークル

- ① 毎週月曜日
- ② 体育館
- ③ 10～15人程度
- ④ 代表：福田 知之 顧問：脇坂 浩
- ⑤ 私たちハッピースポーツサークル(ハピスポ)は、バレーボー
ルやバスケットボール、卓球、バドミントンなどのスポーツ
を、週に1度、体育館で行っています。ハピスポの活動として、
ボーリングやバーベキューなどを行
うこともあります。みんな仲良
く、楽しいサークルなので、ぜひみ
なさんと一緒に活動できる日が来
ることを楽しみにしております。



ソフトテニスサークル

- ① 毎週木曜日（16:00～20:00）
- ② テニスコート
- ③ 20人ほど
- ④ 代表：小堂 藍 副代表：竹内 桃子
顧問：浦野 茂
- ⑤ ソフトテニス好きが集まっているサークルです。主に、試合
を中心にみんなと交流しています。経験者だけでなく、初心
者も混ざって楽しく試合をしています。とびいりも大歓迎で
す。活動2年目で、まだまだ活動が難しかったりしますが、
これから新歓や合宿も積極的におこなっていききたいと思っ
ています。少しでも興味のある方は、ぜひ来てください。

ア ク セ ス マ ッ プ



交通のごあんない

公共交通機関で

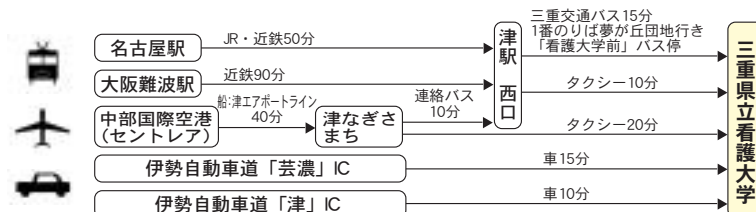
- 名古屋方面より：「名古屋駅」から「津駅」まで
JR快速みえ・近鉄特急で50分
- 大阪方面より：「大阪難波駅」から「津駅」まで
近鉄特急で90分
- ・「津駅」西口バスのりば「1番」から三重交通バスで「夢が丘団地」行き「看護大学前」バス停下車 徒歩1分
- ・「津駅」西口よりタクシーで10分

飛行機 船で

- 「中部国際空港（セントレア）」から
津エアポートラインで「津なぎさまち」へ40分
「津なぎさまち」からタクシーで「三重県立看護大学」まで20分

車で

- 伊勢自動車道「津」ICより10分
- 伊勢自動車道「芸濃」ICより15分



学章の由来

看護のイメージを高めてほしいという願いと、未来に向かって成長していく若者の姿を大小2つの翼とナースの「N」をモチーフにして表現しました。



「大学基準協会」の定める「大学基準」に「適合」と認定されました。

認定マークとは…法で定められた認証評価機関である大学基準協会の大学評価を受けて認定された大学に交付されたものであり、その大学が常に自己点検・評価に取り組んでいること、そして社会に対して大学の質を保証していることを示すシンボルです。



三重県立看護大学は環境配慮の国際規格を認証取得しました。

看護系大学で初めてISO14001を認証取得。

地球環境と共生し調和するエコキャンパスをつくるため、ISO14001に基づく環境マネジメントシステムを構築し、地球環境にやさしいキャンパスづくりを積極的に推進しています。

ISO14001とは…ISO（国際標準化機構）環境保全のための国際規格ISO14000シリーズのうち、ISO14001は企業や団体が事業活動を行う際に、環境に対する負荷を軽減する事業活動の一部として組み込み、継続的改善を行うための環境マネジメントシステムについて定めています。



本学キャラクター「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看護（みかんだい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

編集後記

年2回発行しておりますMCNレポート、第17号をお届け致します。今回は、開学15周年記念事業や震災ボランティア活動、災害に関する公開講座など、本年度の大学の取り組みについて紹介しています。編集に関係していただきました皆様に感謝致します。



MCN REPORT WG



公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1

TEL 059-233-5600 (代)

FAX 059-233-5666

http://www.mcn.ac.jp

